



©Tezuka Productions

医者目指すならハンガリー!



医

者になるには、カネがかかる。私立大医学部の学費は6年間で計2000万～5000万円にもものぼる。国立大の場合は350万円程度だが、かなりの難関だ。

家が裕福か、偏差値エリートでもない限り医者になるのは難しく、涙をのむ人も多かった。だが近年、「ハンガリーで学ぶ」という第三の道が登場した。

ハンガリー第2の都市にある名門デブレツェン大学。6月上旬、森に点在するコテージのような留学生向け学生寮を訪ねると、元看護師の金子哲也(26)が自習室で黙々と人骨の模型に向き合っていた。9月から医学部1年生になる。「年も年でもう後がない。時間が許す限り、勉強したい」

高校卒業後、「手に職を」と看護師になった。だが学べば学ぶほど、仕事の範囲が限られることに歯がゆさを感じ、周囲の反対を押し切って病院を退職。ファミレスでアルバイトをしながら国立大医学部を目指し、1年間浪人した後、ハンガリーに活路を求めた。

人口1000万の小国ハンガリーは1980年代、外貨を稼ぐため国立4大学の医学部に英語で学べるプログラムを作った。卒業すればEU域内で働ける医師免許が得られ、現在は数十カ国から約6000人が学ぶ。大学には、年計1億ドル(約102億円)の学費が入る計算で、地元も留学生が落とすカネで潤ってきた。英語で指導することで、英語圏で活躍する自国の研究者が育つという期待もある。

日本は、一般財団法人ハンガリー医科大学事務局(東京)が窓口となり、10年前から学生を送っている。今年78人が渡航し、累計539人に達した。

卒業生は厚生労働省の審査を経て、日本の医師国家試験の受験資格を得られる。合格すれば、日本でも医者になる道が開ける。2014年に初めて「ハンガリー育ち」の医者4人が誕生し、現在は計26人が全国の病院で働く。

入学準備の1年を含めた7年間の留学費用は、生活費を入れても2200万円前後。2年前からはハンガリー政府による、「学費免除」「月約3万円の補助」という破格の奨学金も登場した。事務局専務理事の石倉秀哉(64)は「とびきり偏差値が高い必要はない。人を助けたい気持ち、死に物狂いで勉強できる覚悟があるかどうかだ」と語る。

カネと偏差値のハードルが下がったことで、多様な人材

が医者への門をたたき始めた。

デブレツェン大3年の山崎まなみ(29)は、日本の大学でアジアの歴史や宗教を題材に「幸せとは何か」を学んだ。東日本大震災の被災地で半年間、傾聴ボランティアとして活動する中で、「医療で人を支えたい」と医者を目指した。

元素記号を覚えるところからのスタートだったが、いまは「医学は実は文系科目だ」と思っている。「社会学や哲学の知識を生かして、病気だけではなく、人を診る医者になりたい」

だが、留年しないで卒業までたどり着けるのは全体の3分の1に過ぎない。膨大な勉強量と頻繁な小テストに加え、英語のハンディもある。とりわけ基礎科目を履修する最初の3年間で、センメルweis大では昨年、2年生247人のうち、4割近くが留年した。デブレツェン大の英語プログラム責任者で准教授のアッティラ・ヤナイ(49)は「医者への簡単な抜け道と考えるのは、大きな間違いだ。貴重な学位を得るには猛勉強が欠かせない」と話す。●(村山祐介)

☞(ウェブ版に「大学と留学生の『そろばん勘定』」を掲載)



自習室で人骨の模型に向き合う金子哲也(上)。

デブレツェン大学の手術風景

photos: Murayama Yusuke